4日間の感覚器看護実習の充実を求めて

1病棟8階

○平原文子　高尾佳愛（1－6）　河村利栄

Ⅰ　はじめに

看護学生の臨床実習の目的は、学習した看護を実践する事である。眼科病棟においても、臨床看護実習生を受け入れているが、感覚器の実習期間は4日間である。学生が情報を収集し、看護を展開し、評価するには短いためか臨床指導にかかわる看護婦から、「看護学生がなかなか患者の所へ行かない、積極性が感じられない」などの意見が聞かれた。

そこで、臨床指導者である私達は、学生には眼科病棟実習前に病棟での心構えなどの情報を提供し、看護婦には眼科病棟における学生指導要綱を作成し指導すれば短期実習も有効な実習をさせることができるのではないかと考えた。そこで、学生用と看護婦用に実習用マニュアルを作成し、実施したところ良い評価を得たのでここに報告する。

Ⅱ　研究目的

看護学生は、臨床実習のマニュアルで事前学習したのち臨床実習に臨み、臨床指導の看護婦も受け入れ準備のための事前学習により、お互いの共通学習のポイントが理解でき4日間が充実する。

Ⅲ　研究方法

1　看護学生感覚器臨床実習のマニュアル（表1）を作成し、臨床実習前に配布する。

2　臨床実習指導マニュアルの見直し（表2）を作成し事前に回覧し学習する。

3　臨床実習終了後、看護学生、臨床指導にあたった看護婦にアンケート調査し、研究の有効性を評価する。

Ⅳ　研究対象

1　当病棟に感覚器実習にきた看護学生34名

2　病棟の臨床指導にあたる看護婦14名

Ⅴ　研究期間

平成12年5月から平成13年1月

Ⅵ　アンケート調査結果

1　看護学生アンケート

アンケートの回収率は85.4%（29/34名）

① 4日間という短期期間の実習は充実していたか

はい　93.1%　（27/29名）　いいえ　6.9%　（2/29名）

② 学生用指導マニュアルがあることで他の実習場所と比べ行いやすかったか

はい　85.2%　（23/27名）　いいえ　6.9%　（3/27名）

③ 実習場所の印象はよかったか

8階スタッフとの関係や8階の環境について

はい　93.1%　（27/29名）　いいえ　6.9%　（2/29名）

④患者のベットサイドにスムーズにいけたか

はい　100%

⑤ アイマスクの患者体験は実習に活かせたか

⑤ アイマスクの患者体験は実習に活かせたか

はい 96.6% (28/29 名) いいえ 0%

2 看護婦アンケート

① 以前と比べ看護学生によりやさしく、看護の楽しさが伝わるように指導できたか

はい 71.4% (10/14 名) いいえ 14.2% (2/14 名)

② 臨床実習指導マニュアルがあることで以前に比べポイントを絞って指導できたか

はい 71.4% (10/14 名) いいえ 21.4% (3/14 名)

③ 積極的に関わることで看護学生の印象によい変化がみられたか

(眼科看護に興味を示すような言動や行動がみられたか)

はい 71.4% (10/14 名) いいえ 21.4% (3/14 名)

④看護学生が積極的に患者のベットサイドにいくようになったと思うか

はい 64.2% (9/14 名) いいえ 28.5% (4/14 名)

⑤今後も患者理解のためのアイマスクの経験は必要と思うか

はい 100% (14/14 名)

Ⅶ 考察

学生のアンケート結果を項目別にみてみると、①の 4 日間の短期実習は充実していたかについては 93.1%の学生が充実していたと答えている。これは、学生自身、自分なりに患者理解ができ内容の深い実習ができたと考える。②の学生用マニュアルがあることで他の実習場所と比べおこないやすかったかの問いに対し、85.2%の学生が実習しやすい場所と答えている。これは、病棟の説明や特に学習する要点が書き込まれ、指導する看護婦もマニュアルに沿って指導するため、病棟の雰囲気が早く理解できたためと考える。③の実習場所の印象は良かったかの問いに、93.1%の学生が良かったと答えている。これは、学生を受け入れるための実習場所の環境を整えることや、当科独自の指導用マニュアルの作成による看護婦間での意識の統一が、学生に与える印象としてよいものになったと考える。④の患者のベットサイドにスムーズにいけたかの問いに対し、全員が行けたと答えている。これは、患者を割り当てる際、患者や学生の安全性を優先し、感覚器疾患としての特性のわかりやすい、看護ケアの行いやすい患者を割り当てるように配慮し、患者の了解を事前に得ている。そのため、患者との人間関係が築きやすかったと考える。⑤のアイマスクの患者体験は実習に活かせたかの問いに、96.6%の学生が活かせたと答えている。これは、看護学生自身が、視覚障害のある患者の擬似体験をすることで患者の気持ちに近づき、看護実習をより意味深いものとする点で有効なものと考える。アイマスクを体験した学生は「怖かった」と答え、見えないことの恐怖や誘導される側のつらさが学べ、視覚障害をもった患者の心理を理解する糸口となっていると考える。

看護婦のアンケート結果を項目別にみてみると、①の看護学生により優しく、看護の楽しさが伝わるように指導できたかの問いに 71.4%ができたと答えている。これは、学生に対する接し方に簡単なアドバイスがあれば、日頃自分たちが行っている看護を説明しながら行うため、看護のプロとしての自覚があれば指導できると考える。②の臨床指導マニュアルがあることで要点を絞り指導できたかの問いに、71.4%ができたと答えている。これ

は、指導の内容、目的が明確にしてあることにより、看護経験や職場の経験に関係なく同じレベルの指導が行えたと考える。③の積極的に関わることで、看護学生の印象によい変化がみられたかの問いに 71.4%がみられたと答えている。これは、なかなか環境になじめない学生に、一つでも学んでほしいと意欲的にかかわることが学生に伝わり、その結果、学生の実習態度の変化につながり、よい印象になったと考える。④の学生が積極的に患者のベットサイドに行くようになったかの問いに 64.2%が行くようになったと答えている。しかし、28.5%が患者のベットサイドに行けていないと答えている。これは学生自身の問題か、患者の問題か、指導する看護婦の問題か、今回のアンケート内容からは要因はわからないが、看護の現場は患者のベットサイドであり、患者とともに看護が成り立つことを看護学生に学んでもらう為に看護婦は、学生と患者との人間関係の橋渡しの役割をしていく事が重要であると考える。
⑤の今後も患者理解のためのアイマスクの経験は必要かの問いに全員が必要と答えている。これは、指導者側もアイマスクによる擬似体験が患者の視力障害を理解するのに大切であると理解している結果と考える。

学生からのアンケートの結果は、この病棟実習の充実を知る目的である。全体的によい印象を与え、臨床実習が充実していたと評価がでている。だが実際「授業としての実習を考えるとき、患者理解と学生理解の両方が必要である」[1.] と言われているように、単に学生を受け入れる環境を整えるだけでなく、学生を理解しようと試行錯誤を重ね、どうしたら学生に短期実習でもやりがいを持ち、有意義な実習を経験してもらえるかを考えながら行った結果と考える。「指導者に認められるということは、学生にとって喜びである、承認されることにより自信や意欲の向上につながると思われる」[2)] と氏平らが述べているように、指導者側の意識的な関わりや学生を承認することで、学生の実習意欲にも差が出てくると考える。今後も個々の学生の個性にあった実習を考え、少しでも充実した実習であったと学生が評価できるように、見守る必要がある。南は「人の手と人の心ができることは、機械にはかえられない、ケアの本質は変わらない」[3)] と述べており、このケアの本質は、人と人の関わりから始まる。そのためにも患者の所へ行き患者から学ぶことが重要である。短期実習をする学生に必要なことは、何かを学ぼうとする姿勢と真摯な態度と患者を理解しようとする気持ちなのではないかと考える。

今回のアンケート調査だけでは、こちらの関わりで積極的になったかどうかの判断はつかない。また、看護婦側のアンケート結果では、患者のベットサイドに行けてないとの評価もあり、学生と看護婦の考え方に違いがみられた。マニュアルがあり指導者が意欲的に関わっても、結果としては 100%のものは期待できないが、意欲的なかかわり、学生を受け入れようと努力している病棟の姿勢は、理解できたのではないかと考える。学生の記録より「眼科病棟に実習にきてよかった」という感想が述べられている。今後もこのマニュアルの改善を行いながら、学生に臨床現場における看護の楽しさや患者を通しての看護の奥深さを理解してもらうべく、かかわっていきたいと思う。

Ⅷ　まとめ

① 看護学生と臨床指導マニュアルを見直し、当科独自の指導マニュアル「看護学生オリエンテーション」を作成し、看護学生の臨床実習にのぞんだ。

② 看護学生と臨床指導看護婦にアンケート調査を行い、マニュアルの使用結果を評価した。

③ 看護学生と臨床指導看護婦のアンケート結果より、患者へのかかわり方に関して看護学生と臨床指導看護婦の考え方に差があった。

④ 看護学生に問題があるのか、指導する臨床指導看護婦に問題があるのか、わからないが、看護学生の個性を考慮し、指導にかかわる看護婦は、看護学生が臨床指導看護婦に援助をもとめやすい環境を看護のプロとして提示するべきである。

⑤ 今後もマニュアルを見直し、学生を受け入れる側の環境を整え、看護学生の個別理解と臨床指導看護婦との距離をみながら、看護の本質である患者理解ができるように意欲的にかかわることで短期実習の充実をはかっていきたい。

引用・参考文献

1) 安酸史子；学生とともにとくる臨地実習教育， 看護教育 41/10（11）814～823,2000

2) 氏平美智子他；臨床指導者の言動が看護学生の学習効果、意欲に及ぼす影響,第 25 回看護教育、24～26,1994

3) 南裕子；21 世紀のナースたちへ,ナースマグ,2（1）7,2000

4) 畑泰子；臨床実習指導者からみた学生のイメージと指導にかかわる研究,第 31 回看護教育,18～21,2000

5) 込田愛子他；看護学生の臨地実習の意欲に影響する因子,第 31 回看護教育,42～44,2000

看護学生オリエンテーション　眼科病棟　表１

１．８時前に各チームに別れ，椅子を持ってきて座る。（朝の行動計画の発表が済んだら椅子を所定の場所に戻す。）白板の下に貼ってある実習予定表を見て，その日の受け持ち看護婦を確認する。

２．引き継ぎ後，受け持ち患者さんの情報収集をする。

３．初日に眼科における４日間の目標（眼科看護の何を学びたいか？）と１日の行動計画を発表する。

４．病棟内のオリエンテーション

① 点眼カードと点眼時間・点眼シール（点眼介助・点眼指導）

② 清拭者にその日清拭を行う予定の患者さんを書いた紙が貼ってあるので清拭が済んだら名前を消す。

③ チーム毎に清拭・洗髪・足浴の必要な患者さんの書いてある表があるので表を参考にして，朝の計画発表時に誰の何を行うかを具体的にする。

④ アイマスクによる患者体験を行う。

５．記録は当科の４号用紙を使用し，自分で立案した問題点にそって書く。
（眼科の実習では正規のチャートには記載しないでください）
午前中・午後４時までにその日の担当看護婦に見せる。

６．点眼・清拭などの技術に関して目的・方法を学習してくる。

７．患者さんと良い関係が築けるよう，患者さんの所へ足を運ぶことが大切です。

８．カンファレンスに出すテーマは先に学生間で話し合ってください。
テーマ・内容は水曜日の１６時までに知らせてください。

指導にあたって　　表２

実習目標（医療短大側）

１．　感覚器系に障害のある患者を理解する。
２．　障害から派生する問題の特殊性を知る。
３．　受け持ち患者の問題を解決するための看護過程を展開できる。
４．　感覚器系における特殊看護技術を習得する。

上記の目標に加えて今年は以下の目標を病棟側で記しました。

１．　視覚に障害を持った患者の身体的・心理･社会的側面から総合的にアセスメントし看護上の問題を導き出すことが出来る。
２．　視覚障害を持つ患者の心理を理解し，視覚障害が患者にどのような影響を与えているか考えることが出来る。
３．　眼科の特性を理解し，看護者の役割について考えることが出来る。

今年も，昨年同様に手術の一連の流れを学習する術前・術後の白内障というよりも，学生がケアできる患者として視力障害のある患者の看護や，安静を強いられる患者の看護を学ぶために，高度視力障害や剥離の術後を付けますが，今年度は白内障や緑内障の患者は２例受け持ちとします。術眼にガーゼを当てた時の視野の変化や，患者にとって周りがどう見えているかを実際に患者の声を聴く事により，疑似体験が出来るように，受け持ち患者以外の患者にも積極的に関われるように促してください。
ケア重視のため，記録はその日の担当看護婦が確認して下さい。方向がずれていないかが問題です。最終の学生の記録の評価は，受け持ち表に丸印のついている方にお願いします。評価が終了しましたら学生指導係へ渡してください。
点眼はきちんと目的・手技を分かってからさせてください。実習２日目からです。角膜の術後は出来るだけ学生に点眼させないで下さい。
カンファレンスは木曜日の１１時からです。婦長・学生指導係が参加します。

看護はベッドサイドで行います。デスクではないと学生に分かってもらって下さい

看護学生オリエンテーション（看護婦用）表２

１．　８時前に各チームに別れ，学生用の椅子を持ってきて座る。片付けもする。
　　白板の下に貼ってある実習予定表を見る。受け持ちスタッフの確認をする。

２．　引継ぎ後，学生の受け持ち患者の情報収集。

３．学生に眼科における４日間の目標と眼科看護のどこを学びたいか述べさせる。
　　次に，１日の行動計画を述べさせる。初日は情報収集しか述べないことが多いが
　　午後からは出来るだけ患者ベッドサイドで情報が取れるように指導する。

４．　病棟内及びナースセンター内のオリエンテーション
　　①　点眼薬のある場所
　　点眼カードと点眼時間・点眼シール（点眼介助・点眼指導）の違いを説明
　　点眼セットの説明
　　学生の使用物品の説明（棚の中にある血圧計やアイマスク）
　　②　清拭車の場所や眼科における使用方法
　　③　センター内のチーム毎のカードの説明
　　眼科の標準看護計画表を見せる。
　　具体的には次回からの清拭・洗髪の計画が出来るように指導する。
　　資料がなければ眼科ナーシングプラクティス等の参考本を見せる。
　　④　オリエンテーション時に廊下に出て，一般病棟と何が違うか質問する。
　　（眼科病棟の特殊性を理解する）
　　風呂とシャワー室内の説明
　　受け持ち患者を紹介
　　⑤　患者体験（患者の気持ちを理解する）
　　アイマスクによる体験
　　その他　片眼カプセル（ガーゼ貼用して）　白内障体験眼鏡での体験

　　以上Ｎｏ．４に関しては，８：３０～９：３０までにお願いします。